

第31回 西宮市子ども・子育て会議

会 議 録

■日 時：令和3年2月16日(火)

■場 所：西宮市役所東館8階 大ホール

会議次第

報告事項

コロナ禍における子育て支援施設・事業の実施状況について

議事

- (1) 令和2年度評価検討ワーキンググループの報告及び西宮市子ども・子育て支援プランの評価について
- (2) 西宮市幼児教育・保育ビジョン（仮称）ワーキングチーム中間報告について

会議概要

報告事項 コロナ禍における子育て支援施設・事業の実施状況について

○委員 質問ではないが、今回、想定もしていなかったようなことが起こって、いろいろと対応に苦慮される中で、国、市の施策があったと思う。実際にサービスを受けた事業者であったりも含めて評価した上で、今後に残しておかれたほうがいいのではないかと感じる。こういうことをやったというのも大事だが、やった上でどうだったかとか、今後同じようなことが起こったときにどういった施策やどういうことに気をつけていけないといけないのかという評価をいずれかの市の中でまとめていただけたらいいと感じた。

○委員 幾つか利用の補助金などがある。例えば4ページの下から2つ目の育児支援サービスの補助を受けた方が何人ぐらいいたのか、次のページの妊産婦の方への支援やオンライン相談、わかば園の電話相談など、来たものに対して受けたものという結果は持っていらっしゃると思う。また、想定されていた件数や金額もあると思うので、今年度中にこれだけ実施できたとか実施できなかったという結果を、今日でなくてもいいので、ご報告いただけたらと思う。

○会長 人数や金額も含めて、この資料にもう少し具体的な説明を加えた上で、資料として残すようにしていただいたほうがいいと思う。せっかくしたことだから今後の参考にもなるというご意見だったと思う。

事務局として、これを今後資料としてまとめていかれることについていかがか。

●事務局 年度が終わり、決算を出す際には、実績値なども出てくると思う。どういう形でご報告するかは別として、そのことについては検討させていただく。

○会長 この子ども・子育て会議の関係でいくと、保育のところで保育所を使えないときにどういう家庭保育で協力したとか、ほかの保育サービスが使われた方がどれぐらいいらっしゃるのかとか、それに対する補助、あと、発達が気になるお子さんの場合、放課後デイなどのサービスをどの程度使われていたのか、それに対する補助がどう行われていたのか、そのあたりは、要支援の方々という意味では意識してまとめていただけたらと思う。よろしく願います。

議事 (1) 令和2年度評価検討ワーキンググループの報告及び西宮市子ども・子育て支援プランの評価について

橋本副会長（評価検討ワーキンググループ（以下、「WG」）座長）からWGの審議結果について、資料に基づき報告

○会 長 まず、事務局のほうに伺うが、先ほど副会長が言われたように、せっかく出した評価・意見が施策に反映されるかが非常に重要なポイントだと思うが、それが今回数値化されていない。そのあたりで、今後評価方法をどうするのかとか、何か考えていることはあるか。

●事務局 今回お出しした評価方法は、確かに、数値化というよりも、いただいたご意見に対してどのように対応していくかを中心に考えている、今すぐどうということは申し上げにくいですが、いただいたご意見も踏まえて検討できるのであれば今後考えていきたい。

○会 長 数値化すれば数値化するで課題が出たり、文字だけの表現になるとそれにも課題があるということで、事務局には少しご苦勞をおかけすることになるかもしれないが、ぜひご検討いただきたい。

○副会長 重点施策6・7は社会福祉審議会児童福祉専門分科会(以下「社福審」)で評価されているが、WGでは、その報告を受けて全体を振り返ることも必要ではないかという意見があった。その点については、ご報告いただく予定か。

●事務局 社福審での評価内容についてのご報告だが、まず、社福審は例年2月に開催しており、今年度も先週の2月9日に開催した。そのため、子ども・子育て会議の日程によっては社福審の評価結果のご報告が間に合わないこともあると思う。その場合に、来年度の1回目子ども・子育て会議の際にこういった内容が出たというご報告をさせていただくか、早めのご報告ということであれば、社福審の議事録が出来上がり次第、送付させていただくことも考えられる。どのようにするのがいいのか伺ってもよろしいか。

○副会長 意見を出された●●委員、いかがか。

○委 員 WGで担当の各重点施策について1項目ずつ評価したが、重点施策6・7についても評価した上で全体のプランがいい方向に向かっているかという評価が必要ではないかと思って発言させていただいた。なので、第1回目にするのか、議事録を送っていただいて、その上で第1回目にプランとしての評価をするかについては、皆さんで検討したらいいと思う。

○会 長 これをここで決めるとすると、意見が出ているわけだが、報告はやはりされたほうがいいと思う。資料をいつ送っていただくかのタイミングは別として、次回に全体の報告をいただくことでいかがか。委員の皆さんは大体うなずいておられるが、事務局はいかがか。

●事務局 次回にご報告させていただくことは可能だと思う。今回、資料集の6ページ

に書いているように、新プランの評価をどのようにしていくかについて、それぞれの重点施策を議論して策定した審議会がそれぞれの評価をするという形をとっているので、社福審のほうで評価は一応行っている形になる。そのため、それを踏まえたご報告を次回にさせていただいてはどうかと思うが、改めての評価をすることになったら、形自体を考える必要が出てくるかと思う。

○会 長 そこは事務局への宿題になるかもしれないが、要は、全体としてどのように評価するか。社福審の評価についても共有しなければいけないが、●●副会長は何かあるか。

○副会長 もちろん報告は受けたい。例えば子供の貧困対策でも、全部の子にリーチできているのか、小学生であれば放課後キッズにその子たちが来ているのではないかなども少し気になる。子ども・子育て支援プラン全てを評価するとなると、情報を早めにとらなければ評価する方々もしやすいのではないかと思うが、いかがか。

○会 長 それは、送っていただいた資料を見ながら、関連性について委員から意見が出て、それによって市のほうで施策や方向性がみえてくるのではないかと思う。事務局としては、次の回に報告いただくことでよろしいか。

●事務局 ご報告自体は、資料を整えてご案内したいと思う。

○会 長 では、全体についてはそうだが、今説明いただいたWGの報告について何かご質問、ご意見があればぜひお願いしたいと思う。

○委 員 参考資料の1ページの数字のところだが、2号認定のお子様がすごく増えている。また、令和2年度もやはり増えている。このあたりは、3歳無償化の影響があるのかどうか1点。もしそうであるならば、令和6年度の2号認定が4,210人と少なくなってしまうので、このあたりはどうお考えなのかを教えてください。

●事務局 昨年の実績値の2号認定の数が令和元年度から増えているという話だが、無償化にあたって急激に3・4・5歳児が増えたというよりは、やはり1歳児の申込みが増えているという印象を得ているが、それによって2号認定も増えているというところかなと思うので、影響がなかったとは申し上げられないが、それだけの理由で増えたとは少し確信が持てない状況。

令和6年度の目標値については、目標値を設定した段階での見込みで、どちらかというと、実績値のほうの方が優先されるように思う。適宜見直しを行っていくとともに、もしこの目標値を超えたとしても、それは確保していく必要があるので、対応したいと思う。

○会 長 無償化の要因というよりは、1・2歳児が多くなっていて、そのスライドで増えているのではないかというのが事務局の解釈。

○副会長 令和元年度の評価なので関係ないが、気になったのは、健やか赤ちゃん訪問事業はコロナ禍でどのようにやっているのかと、民生委員は、健やか赤ちゃん訪問事業だけでなく、いろいろなところで対面でお宅を訪問する仕事をたくさん任せられていて、かつ民生委員の方は結構年齢が高い方が多いので、自分自身がコロナのリスクが高い。市として民生委員の方に何か特別な配慮をしたり、子育て支援は対面サービスが基本だが、なかなかできない状況の中で健やか赤ちゃん訪問事業に影響があったかどうかを教えてください。

●事務局 健やか赤ちゃん訪問事業については、緊急事態宣言が出た期間においては、訪問はするが、インターホン越しでの訪問という形にした。資料については郵送で送るなどの配慮はしている。

○委員 民生委員に関して配慮いただき、インターホン方式をとらせていただいたが、訪問したときに、ぱっと出てこられるお母さん方がたくさんおられて、お互いにマスクをしているが、顔を見ながらお話しすることはできている。それに関しては、お断りした上での面談なので、別に支障はなかったと思う。

ただ、この間、赤ちゃんに対面させていただけることはあまりなかった。それは、民生委員も控えていたと思う。確かに高齢なので、うつってはいけないし、相手の方に向かっていても迷惑がかかるので、ある程度の配慮はした。

○会長 本当にご苦労が多かったと思うが、民生委員の中でも、活動に対して積極的になれる方と遠慮される方もいたのではないか。

○委員 おっしゃるとおり。やはり少し躊躇される民生委員もおられたこともあるが、それは仕方のないことと思っているし、積極的ではないが、従来どおりの訪問等をするをまず念頭に置いて私たちも動くようにした。

○会長 本当に貴重な活動をしていただいている。

民生委員だからこそ、地域に身近なところで見守りをしていただけるというメリットがあると思うので、赤ちゃん訪問の率を上げることも大事だが、引き続き気になるご家庭に対しては見守りや連携をとりながら支援していただくことをぜひお願いしたいし、そのあたりの活動について、西宮市民生委員・児童委員会のほうで感じになられることがあればぜひ市のほうにもお伝えいただいて、一緒に解決していただければと思う。

○委員 今後とも頑張っていきたい。

○会長 ちなみに、副会長からご質問があった、これは令和元年度のことだが、99.8%というのはコロナの影響か。2月、3月に訪問できなかったからか。

●事務局 これについては、全部把握できていて、現在は100%になっている。コロナの影響というわけではない。

○会長 私からそれに関連して、重点施策4のエジンバラのストレスチェックの点数が下がっていることはいいことだと思うが、この理由については何か分析、把握されていることはあるか。勉強のために教えていただきたいと思う。

●事務局 これはエジンバラではなく、市独自でつくっているストレスチェックの14点で満点になるもの。これについては、理由の検証は難しいと思う。受けられた方のご家庭はいろいろであるし、お子様のことだけではなく、家庭のことなどいろいろなことでつけられる。1人目のお子様の場合は、何か分からない不安もたくさんあるので、それでチェックをつけられることもある。そのため、支援を頑張ったから必ず低くなるというわけでもないと思う。ただ、相対的に不安を持ち続けるお母様には支援していく体制をとりたいと考えている。

○会長 そういう形で受け止めさせていただく。

課題もあると思うし、客観的な評価は難しいかもしれないが、感じられることがあれば次に引き継いでいただきたいと思うし、いいポイントも引き継いでいただけたらと思

う。

○委員 WGの委員なので既に発言しているが、つい最近、市政ニュースで見たので、このことについて報告というか意見を述べたいと思う。

参考資料22ページの産前産後における支援の充実のところ、最新の市政ニュースで、「悩み事はすぐ相談 笑顔で子育てしよう」という妊産婦への支援事業の紹介記事がカラーで出ていた。これを見たときに、本当にうれしかったというか、よかったなと思った。そこに新成人の健診や家族の体調などということで、赤ちゃん訪問や産後ケア事業が紹介されていた。これで利用が増えるといいなと思ったが、市政ニュースを通じて、しかも、非常に内容が分かりやすく明るいニュースで、ここは評価したいと思う。

ただ、改めて具体的な内容を見たときに、東京など先進的なところと比べて少し内容が薄いなと思った。例えば産後ケアであれば、西宮は転勤族が多いこともお聞きしているが、実家に帰れなかったり西宮において一人で子育てしている人が、産後すぐの産婦と子供と一緒に助産所や病院に何日か宿泊してケアを受ける制度が1泊7,000円などであったりすることを東京などで幾つか見た。それに比べて西宮では、産後ケアは1回2,000円で2時間だけというところで、産後すぐは赤ちゃんのリズムやご自身のホルモンバランスも変動して寝られないことがうつを誘発することからも、もう少し充実してもいいかなとも感じた。

広報がすごくよかったことと、中身については少し見劣りする部分もあるのかなという2点の追加の意見を述べさせていただきたいと思う。

○会長 バランスのとれたご意見、感謝する。たしか1泊や2泊の事業は、神戸市も補助を出すようにされているのではないかな。かなり手厚くされていると思う。そういうことを含めての話だと思う。1泊か2泊の事業もされているし、それに対する費用の補助もされている自治体もこの近隣では増えてきているので、そういうところを課題としておっしゃっていただいたと思う。

産後ケア事業について、事務局から何かあるか。

●事務局 その点については、西宮市では訪問型しか実施していないが、産後ケア事業は、宿泊型やショートステイ型があるが、当初、西宮が取り組むときには、ショートステイや宿泊を受け入れている施設がなかなかなかったため、まずは訪問型から開始した。今、1つだけ宿泊型を始めたところがあるので、今後、調査研究して、取組みに向けて検討していきたいと思う。

○会長 国もかなり旗を降ってやっておられる産後ケア事業だから、ぜひ積極的にご検討いただけたらと思う。

○委員 私もWGの一人だったのでいろいろと言ったが、一つ気になっているのが、数値に現れないところ。コロナ禍で、例えば自主事業として子育て支援を行っていたり、青愛協が放課後子供教室を実施しておられたり、社会福祉協議会の流れの中で子育て支援の集まりを月に1回されていたりしていたが、私の属している香櫨園地域では、それらが再開されない状況があった。特に親子での子育て支援の場や放課後の子供の居場所事業の参加者が減っていることが実感としてある。このあたりを見える形でとらえておかないといけないと思う。

もう1つは、ほかにどういった協力ができるのかを市、地域の問題としてとらえておかなければいけないと感じている。

直接今回のWGの話ではない部分もあるが、今後、特にコロナ禍がどのように収束していくか分からない状況では、大事な問題だと思っているので、この場をかりて発言した。

○会 長 私からも、資料集11ページの重点施策4「妊娠期から乳幼児期の子育てへの支援」の「(1)妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実」に情報共有のことについて、「制度改正を行うなど連携しやすい環境づくり」とある。この「制度改正」はどういうことを指しているのか。これは、民生委員や利用者支援事業のコンシェルジュも入られると思うが、そういう連携の中での個人情報の共有のことかなと思ったが、事務局から教えていただけることはあるか。

●事務局 「制度改正」すると発言したわけではないが、委員から、個人情報の関係でコンシェルジュが市との情報共有が難しいという問題があるので、支援のことを考えるのであれば、その壁をなくせるように制度を改正してほしいというご意見があった。制度の一定の枠組みはどうしようもないところがあると思うが、今後、検討していくとお答えしている。

○会 長 文章の意味は了解できた。ここのところは意見で、特に市の方向性ではないという意味と理解した。参考資料の19ページでは、利用者支援事業については、おおむね1か月に一度、情報や課題の共有を目的に連絡会を実施しているとある。これは、基本型も母子保健型も特定型も入ってされているのか。

●事務局 全員が一堂に会して情報共有したりしている。

○会 長 そういうことに意味があると思うので、しっかりと続けていただいて、そこで課題を抽出していただきたいと思う。

○委 員 先ほど言われたように、今回の市政ニュースで産後ケアの情報が見やすく分かりやすく一面に掲載されていたことは、私もうれしく思った。それと併せて、今課題になっていることとして、こども未来センターの待機の多さと、そこで悩んでいる親御さんの声が私の耳には多く入ってきていて、「ほっこり広場」の情報がそういう親御さんのところにはまだ入っていないことが多いという感覚を持っている。市政ニュースにああいう形で、子供の障害の早期において保護者や困っている人たちへの受皿の広報や周知ももう少し頑張してほしいと感じた。

○会 長 恐らくこの点は、広報もあるが、保育所・幼稚園のほうで保護者の方と接している方も多いと思うので、そういうところを通じて案内していただけるような仕組みをつくってもいいのかなと思う。

議事（2）西宮市幼児教育・保育ビジョン（仮称）ワーキングチーム中間報告について

○委 員 幼児教育・保育ビジョンワーキングチーム（以下、「WT」）の皆さん、すばらしい内容の報告書、感謝する。保育士として、当たり前だけど絶対にしないといけない基本に戻って私も勉強させていただいた。

事務局に質問していいのかどうか分からないが、うちの保育士は、毎月いろいろな研修を受けてきて、こういう内容の研修もたくさんある。そのたくさんある研修の中から「これが西宮市のものだ」という差別化がすごく難しくなっている。頭の中で混乱するのではないかと思うので、「これが西宮の保育のビジョンだ」という差別化をどうつくり、現場にどう落とし込んでいくのか。

2つ目は、ビジョンができたとして、そのビジョンを現場に落とし込むおおよそのスケジュールについても教えてほしい。

○会 長 研修のことは、前回のWTでも議論になって、もう少し見直す必要があることと、先生方は本当に研修が多くなってしまって、受ける時間もないぐらい現場の先生も大変だというお話も共有したところ。

このビジョンをどのようなスケジュールで落とし込んでいくのかという質問だが、事務局、いかがか。

●事務局 まず、研修については、貴重なご意見として承る。今後ビジョンをブラッシュアップしていく中で参考にしたいと思う。

これを現場にどう落とし込んでいくかについては、このビジョンの策定期間がまだ固まっていない。一応令和3年度中には策定したいと思っているが、その後、これを具体的にどう活用するのかについてを並行して、あるいはその前後で考えていかなければいけないと思っている。今すぐのお答えはないが、そういうスケジュール感になっている。

○会 長 せっかく●●委員からご意見があったように、西宮の幼児教育・保育ビジョンに関する研修をどこかで設けることも大事、それを副会長にやっていただいたワークショップのような形でしていただくなど、そういうことはぜひ前向きに検討いただきたいと思う。

○委 員 私も、素晴らしいビジョンができているなと思う。

ビジョンができた上での今後の動きになると思うが、現在、研修がすごく多いという話を聞いている。子供と向き合ひましょう、保護者の話もゆっくり聞きましょう、虐待があったときにはつなぎましょうと書いているが、私が知っているところによれば、幼稚園などで先生の数が少なくても大変なので、このビジョンを実現するために人員を増やしていく必要があると思う。だから、その声は今後聞いていただけるとは思うが、このビジョンが絵に描いた餅にならないためにも、必ずそういうことも考えて実行に移していただきたいと思う。

○会 長 WTでも、幼児教育・保育の質の担保が繰り返し言われているところだが、もちろん保育士の確保も課題として出ている。こういうことと絡めていかないと、おっしゃったように絵に描いた餅になってしまう。今の●●委員のご意見に対して事務局からなにかあるか。

●事務局 特にない。

○委 員 すごくいい内容だと思う。これをしっかりと読み込んでいきたいと思うが、1点だけ、私どもの園では、保護者の方に賢い方が多くて、教えてもらうことも多い。参画する主体としての保護者というか、パートナーとしてお互いに力を合わせていくという方向性という視点も必要なのかなと思う。私どもの園は、保護者の方からいろいろ

な意見をいただいて、教えられることも多いと実感するので、ただ支える対象ではなく、育てる対象ではなく、教えてもらう対象、あるいは一緒に力を発揮していただく対象としての保護者という見方があっていいかなと思った。

○会 長 親御さんから教えられる、親とともに学ぶとともに、親からも学ぶという項目があってもいいのではないかということだが、これは、子供に関しても言えること。子供は、支えられる存在だけではなく、権利の主体なので、子供から学ぶことも当然あっていい。そういう書きようも意識してはどうかというご意見だが、事務局、いかがか。

●事務局 WTのほうに戻して、この部分をご検討いただきたいと思う。

○副会長 貴重な視点をいただけたと思う。

今まで議論を積み重ねてきて、その意見を反映させた形がようやくできたところで、今改めて全体を見て、本当にそのメッセージが伝わるのかどうかを全体で振り返って議論しないといけないと感じているし、議論がいろいろなところになってしまっていて、全体的にどうなのかとか、私たちが西宮で実現したい教育・保育や保護者支援はどういうものなのかという全体が今は見失っている感じだと思うので、今のようのご意見をいただいて、また議論を積み重ねていけたらと思った。

○会 長 全体という意味で言うと、「共に育ち合う」という意識も必要だろうと受け止めた。

○委 員 西宮の保育の質を担保できるものがあればずっと言い続けてきたので、こういうものができたことはすごく喜ばしいことだと思っている。西宮市のいろいろな施設が同じように西宮の子供を育てていけるようにすることは、子ども・子育て支援プランの理念にもあると思うので、そのようにできていけばいいと思っている。

そこで、支援プランとの関連というか、幼児教育・保育ビジョンの位置づけがどうなるのかを確認したいと思う。支援プランを策定するとき、子供を中心にとっていて、中間報告の一番最後にも書いてあるが、それが一番大事だと思うので、それならば、一番最後ではなく最初に「西宮は子供を中心に」ということがもう少しクローズアップできたらいいと思うし、支援プランとの関連性がもう少し出てくればいいと思った。

「遊びを中心に」と「保護者支援」でまとめているが、遊びをしていく中には、その前に安心できる場や信頼できる人が必要であると思うし、乳児期の大切さも順番を入れ替えるとか、よく分からないが、読んでいくうちに、「ここに書いてあったのか」という感じになったところもあったので、まず安心できる場や信頼できる人が必要で、その中で子供が自分の力を発揮していくとか、育てていってその力が小学校など未来につながっていくということがわかるようなまとめ方ができればいいと思っている。

○会 長 今のも貴重なご意見で、柱立てや順番をどのようにしていけばいいかについては、WTで何度も議論しているところで、まだ中間報告だが、何通りもの組立てができるのではないかと思うので、貴重なご意見として承りたい。

ただ、最初におっしゃっていただいた、8ページの一番最後に書いてある結論めいたところを最初に持ってくるのもいいのではないかというご意見は、分かりやすくいいのかなと思った。具体的なことも言っていただけてありがたい。

事務局、何かあるか。

●事務局 特にない。

○委員 先ほどの●●委員の話に通じるところかもしれないが、長い会議の中でこれだけまとめられて、すばらしいと思った。正直な感想と言うと、2番目に「育てたい子供像」とあったので、大人主体でいろいろなことが進む、こんな子供に育つべきだみたいになってしまうのかと思いながら中間報告を見ると、そうではなく、子供主体だと戻ってきているのは、やはり幼児教育・保育の質とは何なのかをきちんととらえながら考えていただいていたチームの方々の働きが大きいのかなと思っている。

そういう意味では、西宮市が考える幼児教育・保育の質が何なのかを押さえられるような、また、市民の方にもご理解いただけるような言葉をつくっていくことが大事なかと感じた。

もう1つ、これからだと事務局からも説明があったが、では、西宮市としての差別化をどう図っていくか、一つは、西宮市に住んでいる保護者のニーズがどこにあるかだと思う。ここでも●●委員がそうであるように、転入される方が結構多い都市であり、私の香櫨園もそうだが、ニューファミリー層と昔から3世代が住んでいる層がいたり、そういう地域があるのではないかと思ったりしている。そのあたりの調査をもう一度取り入れながら、どういうニーズがあるのかを考えるとともに、西宮市の特色である教育のまちとして、学校教育に携わっている大学機関との連携をどのようにつくっていくか、地域のリソースをどのように用いながら西宮らしさをつくっていくのかということところが今後表されていけば、より西宮らしくなっていくのかなと感じた。

このあたりは意見というよりも感想かもしれないが、今後の進展のところで役立てていただきたいと思う。

○会長 貴重なご意見、感謝する。分かりやすさと盛り込む内容のバランスがなかなか難しいところではあるが、今のもご意見として受け止めさせていただこうと思う。事務局もよろしいか。

せっくなので、●●委員と●●委員からもご発言いただきたいと思う。

○委員 皆様のご意見を伺うことは大事だな、いいものだと感じている。WTでも議論を重ねながら、あっちに行ったりこっちに行ったり、また戻ったりという形で議論してきた。しかし、とても幸せだなと思ったのは、子供たちのことを一生懸命考えながら、その子供たちを大事にする方々とこれほど議論を重ねられること。そういう意味では、すごく楽しく、私たち自身がわくわくするような時間だった。今も、メールでやり取りしながら組み立てていて、中間報告までこぎつけてくださったが、改めて見ると、これはいいなと思いながら、こんな感じになったのかと思った。やはり皆さんの意見を集約することがどれほど大事なと感じている。

西宮市の公立・私立、幼保といろいろ子供関係の方々とワークショップしたときに、これほどすばらしい先生方が西宮市にいらっしゃって、これほど子供たちのことを大事に考えていることを実感して、だからこそ、子供たちのために私たちにできることをやってきたので、ここまで来られたこともすごくうれしいし、まだこれから、今ご指摘いただいたところを考えながら、つくっていくことが楽しみだと思って聞いていた。

皆様の本当に貴重なご意見感謝する。これからも皆で考えていきたいと思うので、ど

うぞよろしく願います。

○会 長 本当にそのとおりのことを言っていた。

○委 員 皆さんの貴重なご意見をお聞きしていると、じっと見ているときはそれほど思わなかったが、時間を空けて中間報告を見ると、説明ばかりで難しいのかな、ご指摘があったように、何が言いたいのかが伝わりにくいのかなとも感じた。皆さんに私たちの思いが共通して通じるためにどのようにまとめていかなければいけないのかと改めて感じた。この後もお会いする方もいっぱいいらっしゃるので、いろいろとご意見をいただけたら私たちもこれに反映していきたいと思う。やはり子供が一番という考え方が皆さんに共通していることは本当にうれしいし、子供が一番、遊びが一番という今の教育・保育の考え方を大切に、分かりやすくまとめていけたらと思うので、ご協力をよろしく願います。

○会 長 現場からの貴重なご意見を常に●●委員、●●委員からいただいて進めさせていただいている。

ほかに、このあたりはもう少しとかのご意見があれば、ぜひいただきたいと思う。

○委 員 保護者の立場からこれを見ると、西宮市の先生方が子供のこともいろいろと考えてつくっていただいて、いろいろな意見があるんだなと思った。

その中で、遊びを大切にするとところは本当に重要なところだと思っている。ただ、私は転勤族のサークルをしていて、幼稚園、保育所を探す親がまず最初に見るところは、「遊びが大事」ということとは違う目線で見ている人が結構多いと感じているので、もっと温かく「遊びが大事」ということがこのビジョンの中でもっと伝えればいいなと感じた。先生方もそこが大事だと思われて第1の柱にされていると思うが、なかなか保護者には、特に西宮では教育熱心な方が多いし、いろいろなことを余計に考え過ぎてしまっている保護者も多い。私も昔はそういうところがあったが、子供を行かせていた幼稚園でも遊びを大事にしていたので、それが大事だなと気づいた。やはりそこを西宮の特色というか、「遊びが大事」をもっと温かく伝えられればいいなと思っている。

ただ、この「遊び」という文字が漢字になっていることで、怠けるみたいな、少し違う感じになるのかなと思うので、これをひらがなにしたらどうなるのかとか、そういうことを少し思ったりしている。「遊び」のところの見せ方を変えるだけでも、もっと温かくなるのではないかと思ったりもしている。

○会 長 これは、私が答えることではないかもしれないが、保育者の方々に伝えたいということが最初あって、やはり保護者の方にもぜひこれは理解いただきたいという意味合いもあるので、●●委員がおっしゃったように、保護者の方に伝わるような伝え方やメッセージ性をこれからできる限り考えていきたいと思う。

●事務局 主なターゲットとして保育者を考えているところがあって、その分、今ご指摘いただいたところは書きぶりとして弱いのかなと庁内での議論としてもあるので、そのあたりは貴重なご意見としてWTのほうでも考えていきたいと思っている。

○会 長 最初は保育者向けと考えていたが、これは親御さんにも読んでもらわなければいけないと考えて、ようやくここにたどり着いたが、さらに進めていきたいと思う。

○委 員 本当に大事なことを押さえたビジョンをつくっていただいて、感謝する。

全国的に乳幼児教育に関しては、遊び中心にと、いろいろな研修があったり、保育の質が高まってきていると思うが、西宮で幼児教育・保育のビジョンとしてこういう素敵なものをつくっていただいたので、ぜひこういうことを西宮では大事にして教育・保育をしているということが、小学校以降にもつながるようにどこかの機会でお知らせする機会があればいいなと個人的に思った。

○会 長 今のこともまさにWTでも小学校との接続として議論されているので、さらに確認しながら進めようと思っている。

○委 員 最後のページの「子供と保護者を見守・支えるための力の向上」というところは、子供のために保育士などが研鑽していく、スキルアップしていくという内容で、すごく分かりやすく書かれている。ただ、1日の保育が終わって記録をつけるが、保育者は、保育するだけでも精一杯子供に向き合っているのに、その記録をつける負担は、現場を見ていると、本当に隙間隙間で一生懸命親御さんの連絡ノートを書いたりされているので、この記録はすごく重要だと思うが、その質を上げるためにも、保育者の保育以外の手間をどう省いてあげるかがすごく問われるのではないかと感じている。例えば、今SNSが発達しているので、ある保育所では、保護者にSNSで送っていたり、書く作業を大分簡略化したりして、より充実させて親御さんとのコンタクトをとるように努力されている保育所もあると聞いている。そういった感じで、質を上げるからこそ、保育者の作業を減らしてあげることも必要ではないかと考えた。

○会 長 ここの「1日の保育が終われば記録をつける」というあたりの書きぶりだが、振返ることやそれを共有することの重要性は皆さん分かっていると思う。貴重なご意見感謝する。

(議事が一旦終了する。)

○委 員 議事1のワーキンググループの報告に戻らせていただいてもよろしいか。

○会 長 はい。

○委 員 ●●委員から、こども未来センターの待機の問題で、保護者の方に「ほっこり広場」がまだまだ広まっていないというお話があったが、その返事として、幼稚園や保育所とかで広がっていくでしょうとおっしゃっていた。しかし、実際は、保育所は0歳児からいらっしゃるが、幼稚園のほうは、そこでは遅いというか、それより以前に悩んでいる方がたくさんいらっしゃるので、児童館や子育てひろばなどでの告知がとても重要だと思っている。地域の子育てサロンは、コロナの関係でまだ再開できていない。今やっておられる地域の子育てサロンは、高齢の方がお世話係だからなかなか再開できないという声もよく聞くので、例えば今までやっていた方は、取りあえず今は来れないならほかの手だてで、もっと出歩ける人に子育てサロンをやっていただくとか、そういうことも今後行政のほうで検討していただきたいと思う。早急にいただきたいと思うが、そういうご予定はあるのか。

○会 長 今のは子育てサロンの運営のことに関してだか、かなり大きなテーマになる。事務局ですぐに答えていただくのは難しいかもしれないが、何かあるか。

●事務局 子育て地域サロンについては、それぞれの団体がボランティア主体で開催しておられるので、すぐに枠組みを変えてという形は市としても早急には難しい話だと思っている。市の管轄の子育てひろばについては、若い方もおられて、今は感染対策をとりながら開催している状況。

○会 長 ●●委員がおっしゃることはとてもよく分かるが、自治体によっては、地域子育て支援事業のような形でNPO法人などに委託しながら広げていくようなことをされているところもある。

○委 員 私は鳴尾だが、鳴尾だけでなく、市内では子育て地域サロンを開いていらっしゃる場所もたくさんある。それは、高齢者の方も含めて、しっかりと向き合ったメンバーで開いていらっしゃる場所がたくさんある。開催場所の条件もいろいろあって、なかなか開催しにくい場所もある。高齢者のほうも、コロナに関しては危惧される方もあるが、進んでボランティアとして参加したいとおっしゃっている方もたくさんいらっしゃるので、4月ぐらいから少しずつ再開していきたいという方向ではある。運営云々というよりも、開催するかしないかは各団体の方針だと思うので、いましばらくお待ちいただけないか。

○会 長 恐らく今のは2つのことが混在していて、1つは、未来センターの取組みについて、1年待ちという状態の中で、早期の対応をされているから、そのことについての周知をもう少し丁寧に図ることが大事だという意見と、地域で子育て支援をいただいている方々への支援やその枠組みについて今後検討する必要があるというご意見と、この2つのご意見があったと思う。

●事務局 今のことで誤解のないようにしていただきたいのは、おっしゃっているのは地域サロンだと思うが、これは、社協が中心でされてる事業で、市の事業ではないので、それを市がすぐどうこうは難しいと申し上げたつもり。

○会 長 枠組みという大きなおっしゃり方もされたと思うので、そこは今後の課題として、会議のほうではそういう発言があったことは残していただけたらと思う。事務局、それでよろしいか。

●事務局 はい。

〔午後7時58分 閉会〕

【委員出席者名簿 16名】

【事務局出席者名簿 18名】

| 所属団体・役職名等 | 氏名 | 所属・役職 | 氏名 |
|-----------------------------|--------|-------------------------|-------|
| 西宮市PTA協議会 副会長 | 岩本 佳菜子 | こども支援局長 | 時井 一成 |
| 株式会社チャイルドハート 代表取締役社長 | 木田 聖子 | 子供支援総括室長 | 大神 順一 |
| 西宮市民生委員・児童委員会 理事 | 貴山 好江 | 子供支援総括室参事(計画推進担当) | 安福 聡子 |
| 西宮労働者福祉協議会 特別理事 | 久城 直美 | 子育て支援部長 | 小島 徹 |
| 公募委員 | 久保 香 | 子育て事業部長 | 伊藤 隆 |
| 武庫川女子大学文学部 教授 | 倉石 哲也 | 子育て事業部参事(保育指導担当) | 堤下 康子 |
| 西宮市青少年愛護協議会苦楽園地区青少年愛護協議会 会長 | 佐藤 美由紀 | こども未来部診療事業課長 | 谷口 祐子 |
| 公募委員 | 多田 由希子 | こども未来部地域・学校支援課長 | 金井 温宏 |
| 神戸YMCA | 谷川 尚 | こども未来部子育て総合センター所長 | 海部 康 |
| 西宮市私立幼稚園連合会 理事長 | 田村 三佳子 | 政策局参与(就学前児童政策担当) | 安井 洋一 |
| 関西学院大学教育学部 教授 | 橋本 祐子 | 政策局政策総括室政策推進課担当課長(政策企画) | 岡崎 州祐 |
| 小規模保育園森のこどもたち 園長 | 林 真咲 | 健康福祉局保健所地域保健課長 | 塚本 聡子 |
| 社会福祉法人ほっとスマイル 理事 | 東野 弘美 | 教育次長 | 佐々木 理 |
| 西宮市私立保育協会 会長 | 藤原 和子 | 学校教育部特別支援教育課長 | 原田 綾女 |
| 甲南大学マネジメント創造学部 教授 | 前田 正子 | 社会教育部地域学校協働課担当課長(放課後事業) | 後迫 竹宏 |
| 転勤族ママ&キッズ探検隊 in 西宮 代表 | 松村 真弓 | | |
| | | | |
| | | | |